

I 普通作物

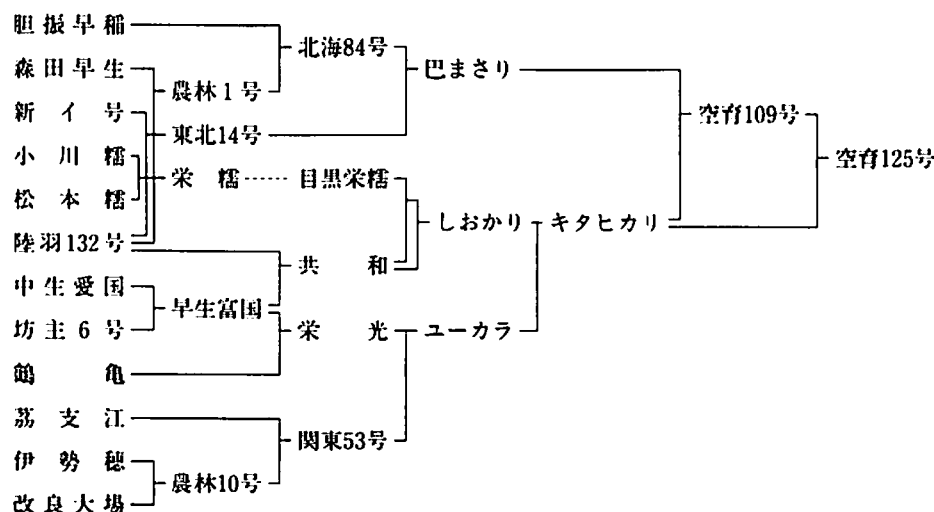
1. 水 稻

< 梗 種 >

(1) 空育125号 (系統名 空育125号) 1987年

登録番号：(北海道) 水稻北海道うち第34号
(種苗法) 第1796号

来歴 本品種は、1978年に北海道立中央農業試験場において「空育109号」を母、「キタヒカリ」を父として人工交配を行い育成したもので、1982年より「空系57225」、1984年から「空育125号」の系統名で各種の試験を行い、1987年に優良品種となった。なお、本品種の系譜は次のとおりである。



特性概要

1. 稈長は「ともゆたか」より長く「ゆきひかり」並で、穂長は「ともゆたか」よりやや短く、穂数は「ともゆたか」より少なく「ともひかり」並で、偏穂数型である。
2. 稈先には稀に短い芒があり、割穂の発生は「ともひかり」より少なく「ゆきひかり」並の少である。
3. 出穂期は「ともひかり」より1～2日遅く「ともゆたか」並の中生の早、成熟期は「ともゆたか」より2～3日早く、「ともひかり」並で早生の晩に属し、登熟性が良い。
4. 障害型冷害に対する抵抗性はやや強～強、いもち病抵抗性はやや強～強、耐倒伏性は中～やや強である。
5. 玄米収量は、「ともゆたか」よりやや低く、「ともひ

かり」並である。

6. 梗種で、粒形は「ともゆたか」より短い中、粒大は中粒で、玄米品質は上下上であり、食味は「ゆきひかり」並である。

栽培適地と奨励態度

空知、石狩、胆振、日高、後志、上川(士別以南)、留萌中南部と渡島及び檜山北部の「ともゆたか」の全部及び「ともひかり」の一部とおきかえる。栽培上の注意は、苗が徒長しやすいので育苗管理に注意し、多肥栽培では食味が低下するので、北海道施肥標準を守り、分けつ数がやや劣るので、茎数の早期確保をはかるため、植付株数は25株/m²とし、気象条件の劣る地帯では出穂期の遅延程度がやや大きくなることもあるので、生育の促進を図るため、中苗以上のものを用いること。

試験場名	苗の種類	品種名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期における			10a当り		玄米		試験年次
					稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本)	玄米重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	等級	
中央農試	中苗	空育125号	7.30	9.10	64	16.7	608	497	100	21.1	1中	1984～1985
		ともゆたか	7.31	9.14	62	17.1	625	496	100	22.6	2下	
		ともひかり	7.30	9.11	60	18.3	557	485	98	21.0	1中	
		ゆきひかり	8.1	9.15	63	17.8	576	462	93	20.4	1下	

試験場名	苗の種類	品 種 名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期における			10a当り		玄 米		試験年次
					穂 長 (cm)	穂 長 (cm)	穂 数 (本)	玄米重 (kg)	左 比 (%)	千粒重 (g)	等 級	
上 川 農 試	中 苗	空育 125号	7.31	9. 9	68	15.9	667	599	102	21.4	1中	1984~1986
		ともゆたか	7.30	9.11	63	15.9	757	588	100	22.1	2上	
		ともひかり	7.30	9.12	65	17.9	672	583	99	21.0	1中	
		ゆきひかり	8. 1	9.16	66	17.5	645	569	97	20.5	1中	
遺伝資源センター	中 苗	空育 125号	7.29	9.15	63	15.9	629	611	97	22.6	1中	1984~1986
		ともゆたか	7.30	9.17	59	16.4	660	629	100	23.8	2中	
		ともひかり	7.29	9.15	59	16.7	585	591	94	22.2	1下	
		ゆきひかり	7.31	9.18	63	17.8	601	633	101	21.4	2上	
道 南 農 試	中 苗	空育 125号	8. 1	9.14	70	16.4	472	496	103	21.4	1中	1984~1986
		ともゆたか	8. 2	9.18	67	16.7	540	481	100	22.6	2中	
		ともひかり	8. 1	9.13	67	17.3	424	462	96	21.0	1下	
		ゆきひかり	8. 4	9.16	73	17.8	470	512	106	20.9	2中上	

注 1) 試験成績はいずれも標準施肥区。穂数は㎡当たりの本数で示し、以下同様である。

2) 玄米重比率は「ともゆたか」対比である。

参照 1) 北海道農務部編, 昭和62年普及奨励ならびに指導参考事項, 3-6(1987)。

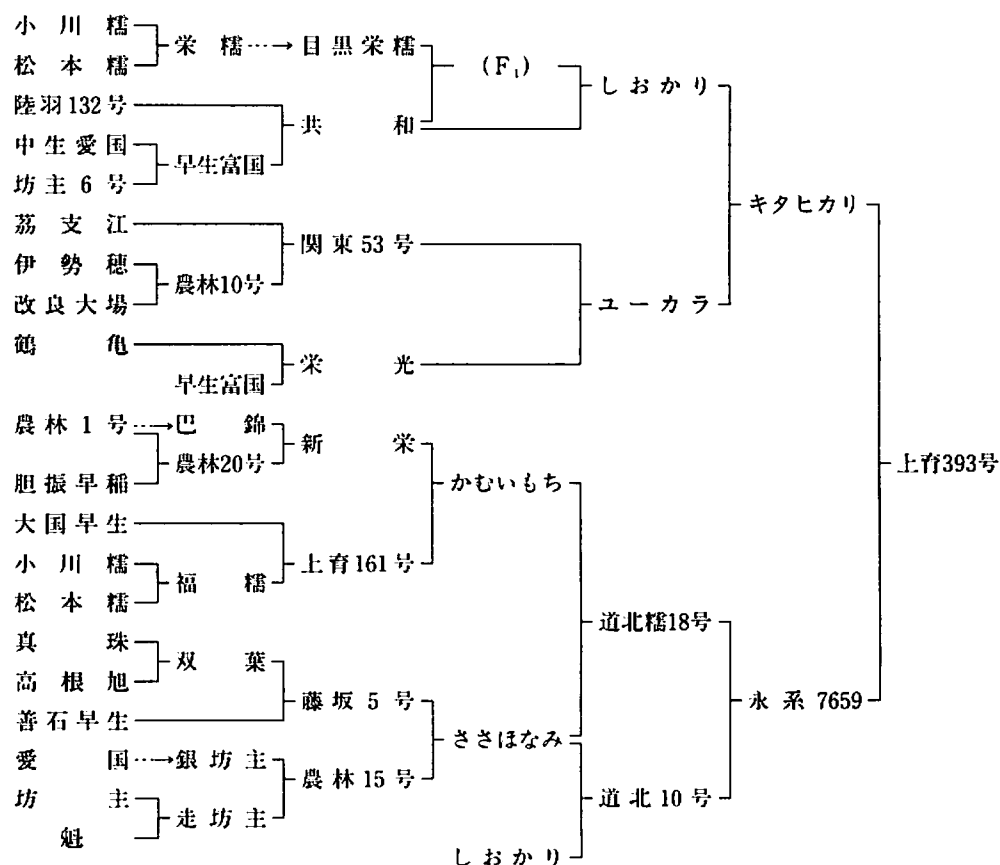
2) 三分一 敬等, 北海道立農試集報, 53, 25-40(1988)。

(2) 上育393号 (系統名 上育393号) 1987年

登録番号: (北海道) 水稻北海道うち第35号

(種苗法) 第1797号

来歴 本品種は、北海道立上川農業試験場において「キタヒカリ」を母、「永系7659」を父として人工交配を行い育成したもので、1982年より「上系8258」、1984年から「上育393号」の系統名で各種の試験を行い、1987年に優良品種となった。なお、本品種の系譜は次のとおりである。



特性概要

1. 稈長は「キタアケ」より長く「ともひかり」より短く、穂数は「キタアケ」より少なく、「ともゆたか」に比べるとやや少ない偏穂数型で、稈先は無芒である。
2. 割穂の発生は「ともひかり」より少なく、「はやこがね」や「キタアケ」程度の少である。
3. 出穂期は「はやこがね」よりやや遅く、「キタアケ」程度で早生の中に属する。成熟期は「キタアケ」よりやや遅いが、早生の中に属し、登熟日数は「ともひかり」並である。
4. 障害型耐冷性はやや強～強、いもち病抵抗性は中～やや強、耐倒伏性は中～やや強である。
5. 梗種で粒形はやや長、粒大は中位、粒重は「ともひ

かり」並の中位で、玄米品質は「キタアケ」より優り上中下で、腹白は「はやこがね」程度、搗精歩合は「キタアケ」並である。

栽培適地と奨励態度

上川、網走、十勝、留萌、空知、石狩、後志、胆振、日高支庁管内および渡島、檜山北部における「はやこがね」「キタアケ」の一部におきかえ、早生種地帯の良質、良食味米の生産に貢献する。栽培上の注意は、出穂期は早生の中であるが、登熟性が劣るので、生育の遅れる地帯では成苗を用いる。耐倒伏性といもち病抵抗性が十分なので、多肥栽培を避け適期防除を行い、植付け株数は25株/m²以上とし、障害型耐冷性は「キタアケ」より劣るので、適切な水管理を励行する。

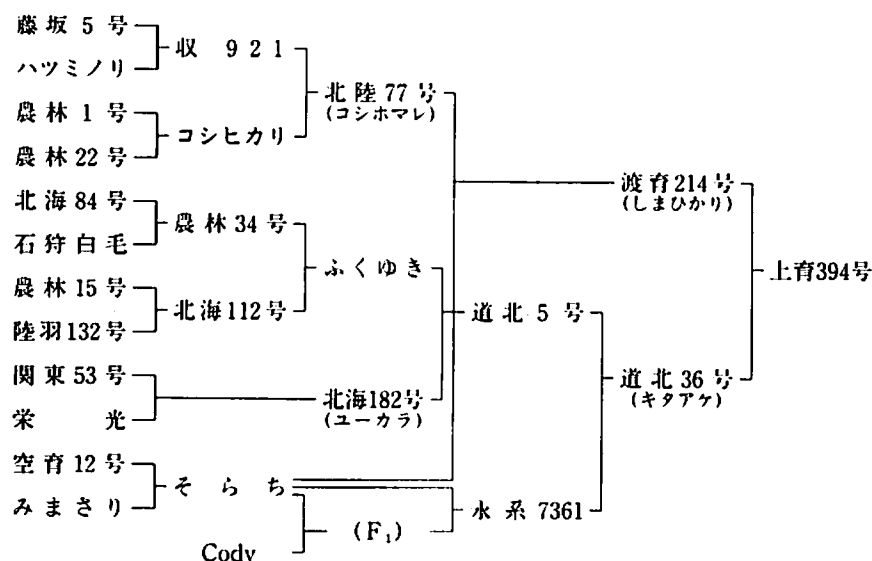
試験場名	苗の種類	品種名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期における			10a当り		玄米		試験年次
					稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本)	玄米重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	等級	
上川農試	中苗	上育393号	7.28	9.8	67	17.1	621	546	105	21.3	1中	1984～1986
		はやこがね	7.27	9.3	59	14.3	785	520	100	20.2	1中	
		キタアケ	7.29	9.5	60	15.0	735	549	106	22.3	1下	
		ともひかり	7.30	9.12	65	17.9	672	583	112	21.0	1中	
北見農試	中苗	上育393号	8.5	9.19	65	17.2	547	538	116	21.2	1下	1984～1986
		はやこがね	8.2	9.15	57	14.4	672	463	100	19.8	1中	
		キタアケ	8.5	9.18	58	14.8	613	489	106	22.2	1下	
		ともひかり	8.7	9.21	61	17.2	567	511	110	21.1	1中	
遺伝資源センター	中苗	上育393号	7.29	9.14	66	17.8	516	563	102	22.1	1中	1984～1986
		はやこがね	7.28	9.12	58	14.1	725	554	100	20.7	2下	
		キタアケ	7.29	9.12	59	14.8	579	558	101	23.5	2上	
		ともひかり	7.29	9.15	59	16.7	585	591	107	22.2	1下	
道南農試	中苗	上育393号	8.2	9.20	68	18.1	494	493	120	20.7	2中	1984～1986
		はやこがね	8.1	9.16	62	14.7	658	410	100	19.5	2中	
		キタアケ	8.2	9.15	60	15.4	541	482	118	22.2	2上	
		ともひかり	8.2	9.17	60	18.1	503	483	118	20.9	2上	

注) 試験成績はいずれも標準施肥区。

- 参照 1) 北海道農務部編, 昭和62年普及奨励ならびに指導参考事項, 6-9(1987).
2) 佐々木一男 等, 北海道立集報, 58, 1-11(1988).

- (3) 上育394号 (系統名 上育394号) 1987年
登録番号: (北海道) 水稲北海道うち第36号
(種苗法) 第1798号

来歴 本品種は、1980年に北海道立上川農業試験場において、「渡育214号」を母、「道北36号」を父として人工交配を行い、その雑種第1代の蒔培養により育成したもので、1982年より「AC82209」、1984年から「上育394号」の系統名で各種の試験を行い、1987年に優良品種となった。なお、本品種の系譜は次のとおりである。



特性概要

1. 稈長は「マツマエ」並かやや長く「巴まさり」より短い、穂長は「マツマエ」より短く、穂数は「マツマエ」並で、偏穂数型である。
2. 穎色は淡黄色、稈先色は黄白で無芒、脱粒性は難、割粃発生率は「マツマエ」より低い。
3. 出穂期は「マツマエ」と同じか1日程度早い晩生の中、成熟期は「マツマエ」とほぼ同じで「巴まさり」より4～5日早い晩生の中に属し、登熟はやや劣る。
4. 障害型耐冷性は「マツマエ」並のやや強、葉いもち病抵抗性は「マツマエ」より優りやや強～強、穂いもち病抵抗性は「マツマエ」並で、耐倒伏性は「マツマエ」よりやや劣るが、「巴まさり」より明らかに強い。
5. 玄米収量は「マツマエ」より多収で、「巴まさり」に比べると明らかに多収を示す。

6. 梗種で玄米形状はやや円粒、粒長は「マツマエ」「巴まさり」よりやや短く、粒大及び千粒重は中位で、心白は「マツマエ」並に少なく、腹白は「巴まさり」並に多く、玄米品質は「マツマエ」より劣り「巴まさり」並で、食味は「巴まさり」並かやや良い。

栽培適地と奨励態度

渡島南部、檜山南部及び西胆振の「マツマエ」の一部とおきかえ、道南南部地帯の良食味米の安定生産に寄与する。栽培上の注意は、穂の粒着が密であるため登熟が遅れる場合があるので、中苗以上の苗を用い植付株数は25株/m²以上とし、稈質と耐倒伏性が十分でないので多肥栽培を避ける。いもち病抵抗性は「マツマエ」並かやや強いが、発病の早期発見に努め適期防除をおこない、障害型耐冷性は「マツマエ」並のやや強であるが、穂孕期が低温の際には深水灌漑を行う。

試験場名	苗の種類	品種名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期における			10a当り		玄米		試験年次
					稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本)	玄米重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	等級	
上川農試	成苗	上育394号	8.6	9.20	71	15.0	600	590	104	21.5	2中	1984～1986
		マツマエ	8.6	9.20	68	16.6	584	566	100	22.8	2上	
		巴まさり	8.8	9.25	80	17.6	746	522	92	20.2	2下	
道南農試	成苗	上育394号	8.8	9.23	70	16.0	484	511	99	21.8	2下	1984～1986
		マツマエ	8.9	9.24	68	16.9	465	517	100	22.9	1下	
		巴まさり	8.10	9.27	79	17.7	572	506	98	20.4	2中	
北海道農試	成苗	上育394号	8.1	9.14	65	14.1	444	571	108	21.9	2	1984
		マツマエ	8.2	9.11	68	15.6	410	530	100	23.4	1	
		巴まさり	8.3	9.14	80	16.6	528	504	95	21.2	1	

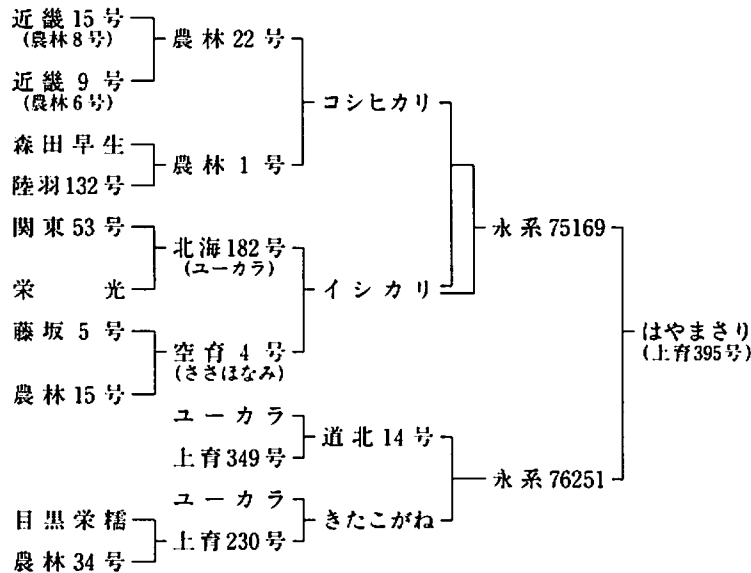
注) 試験成績はいずれも標準施肥区。

- 参照 1) 北海道農務部編, 昭和62年普及奨励ならびに指導参考事項, 10-14(1987)。
2) 佐々木一男 等, 北海道立農試集報, 58, 13-23(1988)。

(4) はやまさり (系統名 上育395号) 1988年

登録番号：(北海道) 水稲北海道うるち第37号
(種苗法) 第2150号

来歴 本品種は、1977年に北海道立上川農業試験場において、「永系75169」を母、「永系76251」を父として人工交配を行い育成したもので、1981年より「上系81209」、1985年から「上育395号」の系統名で各種の試験を行い、1988年に優良品種となった。なお、本品種の系譜は次のとおりである。



特性概要

1. 稈長は「はやこがね」並で「キタアケ」よりやや短く、穂長は「キタアケ」「はやこがね」より長く、穂数は「はやこがね」より少なく「キタアケ」並で、穂数型である。
2. 先には芒がなく、色と先色は黄白で、脱粒性は難、割粃は「キタアケ」「はやこがね」より多いが「ともひかり」より少ない。
3. 直播栽培における出穂期は「はやこがね」と同程度で、登熟日数は「はやこがね」並である。
4. 障害型耐冷性は強～やや強、葉いもち病と穂いもち病の抵抗性は強で、耐倒伏性は強である。
5. 粳種で玄米の形状はやや長、粒大と粒重は中位、腹白の発生は微、玄米品質は上下上であり、食味は「キ

タアケ」と同程度である。

栽培適地と奨励態度

上川、空知支庁管内の良地帯及びこれに準ずる地帯の「キタアケ」に替え、直播栽培の安定化と品質向上並びに低コスト米生産に寄与する。栽培上の注意は、移植栽培では不時出穂をする場合があり、穂揃いが悪くなり品質が劣化するので直播栽培を行う。低温発芽性がやや劣るので、種子の予措と催芽を十分に行い、適期播種と適正な水管理により苗立ち性の向上を図る。耐倒伏性といもち病抵抗性が不十分なので、多肥栽培を避け適期防除に努め、障害型耐冷性はやや強であるが、幼穂形成期以降の水管理は的確に実施し、割粃が「キタアケ」より多く、刈遅れによる品質低下の恐れがあるので、適期刈取りを行う。

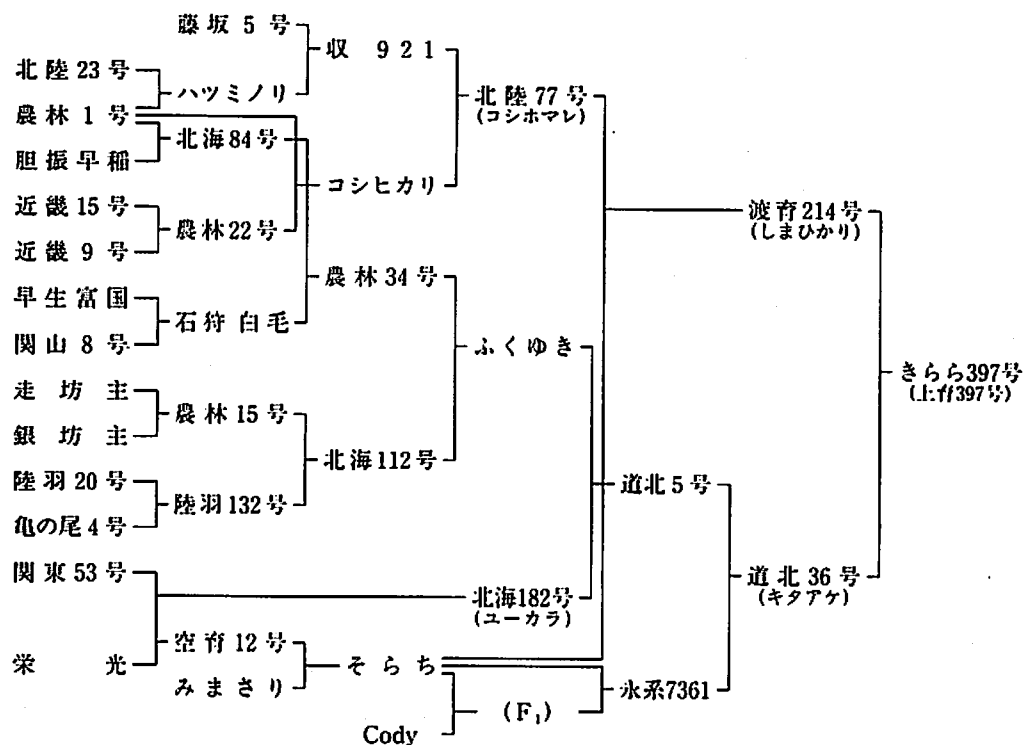
試験場名	栽培条件	品種名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期における			10a当り		玄米		試験年次
					稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本)	玄米重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	等級	
上川農試	直播	はやまさり	8.3	9.17	56	15.2	882	531	101	21.3	1下	1982～1987
		キタアケ	8.7	9.23	59	13.1	892	529	100	22.2	2上	
	栽培	はやこがね	8.2	9.15	55	12.9	1028	513	97	20.6	1下	

注) 試験成績は標準施肥区。

- 参照 1) 北海道農務部編, 昭和63年普及奨励ならびに指導参考事項, 3-6(1988).
2) 沼尾吉則 等, 北海道立農試集報, 54, 19-30(1990).

- (5) きらら397 (系統名 上育397号) 1988年
登録番号: (北海道) 水稲北海道うるち第38号
(種苗法) 第2151号

来歴 本品種は、1980年北海道立上川農業試験場において「渡育214号」(しまひかり)を母とし、道北36号」を父として人工交配を行い育成したもので、1983年より「上系8381」、1985年からは「上育397号」の系統名で各種の試験を行い、1988年優良品種となった。なお、本品種の系譜は次のとおりである。



特性概要

1. 稈長は「ともひかり」並かやや短く、穂長は「ともひかり」より短く「キタヒカリ」並であり、穂数は「キタヒカリ」「ともひかり」より多く、草型は典型的な穂数型である。
2. 粒着密度は中で、稈先には稀に短芒があり、稈色と稈先色は黄白である。脱粒性は難、割粃は「キタヒカリ」より多く、「ともひかり」より少ない。
3. 出穂期は中生の早、登熟日数は「キタヒカリ」より長く「ともひかり」並で、成熟期は中生の早である。
4. 障害型耐冷性は「ともひかり」並のやや強、出穂遅延は「キタヒカリ」や「ともひかり」より小さく、いもち病抵抗性は葉いもち、穂いもちともにやや強、耐倒伏性はやや強～中である。
5. 玄米収量は「ともひかり」よりやや劣るが、「キタヒカリ」に比べると優る。

6. 梗種で、粒形はやや長く、粒大は「ともひかり」並かやや大、粒重は「キタヒカリ」よりやや軽く「ともひかり」より重い。腹白の発生はやや少で、玄米品質は上中下であり、食味は「ゆきひかり」にやや優り、「キタヒカリ」より明らかに良い。

栽培適地と奨励態度

石狩、空知、後志、日高、上川中南部、留萌中南部、檜山北部、渡島北部及びこれらに準ずる地帯の「キタヒカリ」の全部と「ともひかり」の一部におきかえて栽培し、本道産米の食味向上に寄与する。栽培上の注意は、出穂期は中生の早であるが、登熟性が劣るので中苗以上を用い、生育の遅れる地帯では成苗を用いる。耐倒伏性が劣り、穂数が過剰になりやすいので多肥栽培を避け、いもち病抵抗性はやや強であるが適期防除を行う。障害型耐冷性はやや強であるが、不十分なので穂孕期の低温の際には深水灌漑を励行する。

試験場名	苗の種類	品 種 名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期における			10a 当り		玄 米		試験年次
					穂 長 (cm)	穂 長 (cm)	穂 数 (本)	玄米重 (kg)	左 比 (%)	千粒重 (g)	等 級	
上 川 農 試	中 苗	きらら397	8. 4	9.19	61	16.0	722	536	104	22.1	1中	1985～1987
		キタヒカリ	8. 7	9.20	64	16.3	611	517	100	22.1	1下	
		ともひかり	8. 2	9.19	62	17.5	664	549	106	21.7	1中	
		ゆきひかり	8. 4	9.23	62	17.4	630	548	106	20.8	1中	
遺伝資源センター	中 苗	きらら397	8. 4	9.23	63	16.7	670	632	106	22.3	2上	1985～1987
		キタヒカリ	8. 7	9.23	63	17.4	551	598	100	22.6	2中	
		ともひかり	8. 1	9.20	61	17.4	602	621	104	21.8	2上	
		ゆきひかり	8. 3	9.23	64	17.8	604	624	104	21.1	2上	
中 央 農 試	中 苗	きらら397	8. 8	9.26	64	17.1	683	479	113	20.9	2中	1985～1987
		キタヒカリ	8.10	9.27	67	16.5	600	424	100	20.6	3中	
		ともひかり	8. 6	9.23	63	18.1	594	462	109	20.1	2上	
		ゆきひかり	8.10	9.27	69	18.4	566	432	102	19.6	2中	
道 南 農 試	中 苗	きらら397	8. 3	9.12	67	16.8	509	455	97	21.6	1下	1985～1987
		キタヒカリ	8. 6	9.20	69	16.5	481	472	100	21.8	1下	
		ともひかり	8. 2	9.15	67	17.2	428	460	97	20.5	1下	
		ゆきひかり	8. 4	9.19	73	17.7	477	477	101	20.7	1下	

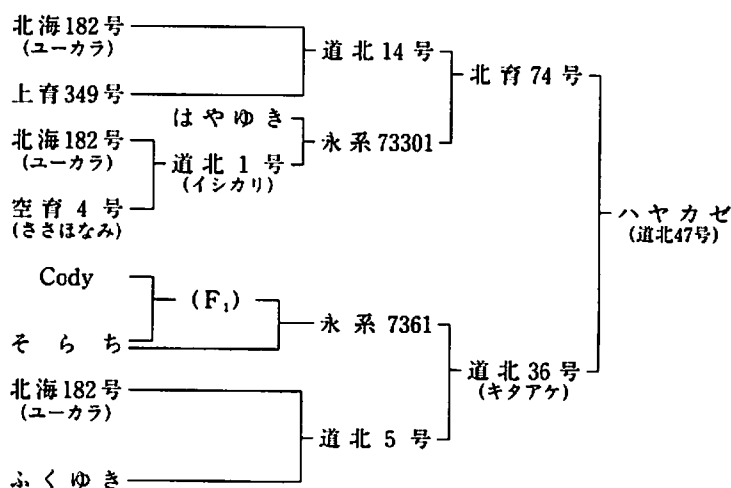
注) 試験成績はいずれも標準施肥区。

- 参照 1) 北海道農務部編, 昭和63年普及奨励ならびに指導参考事項, 6-10(1988)。
2) 佐々木多喜雄 等, 北海道立農試集報, 60, 1-18(1990)。

(6) ハヤカゼ (系統名 道北47号) 1990年

登録番号: (北海道) 水稻北海道うち第40号
(農水省) 水稻農林303号
(種苗法) 第2868号

来歴 本品種は, 1982年に北海道立上川農業試験場において, 「北育74号」を母, 「道北36号」(キタアケ)を父として人工交配を行い育成したもので, 1987年から「道北47号」の系統名で各種の試験を行い, 1990年に優良品種となった。なお, 本品種の系譜は次のとおりである。



特性概要

1. 穂長は「はやこがね」並の短穂で穂長も短い。穂数は「はやこがね」と「上育393号」の中間程度で、一穂粒数は「上育393号」より少なく「はやこがね」並で、

草型は穂数型, 割穂の発生はやや少である。

2. 出穂期及び成熟期はともに早生の早に属する。
3. 障害型耐冷性はやや強～強, いもち病の圃場抵抗性は, 葉いもち並びに穂いもちともに強, 耐倒伏性はや

特性概要

1. 稈長は中で「マツマエ」より長く、穂長はやや長、穂数は中で「巴まさり」より少なく、偏穂数型である。
2. 稈先には稀に短い芒があり、稈色と稈先色は黄白、脱粒性は難、割れ粳は「マツマエ」より少なく「ゆきひかり」並かやや少ない。
3. 出穂期は晩生の中、成熟期は晩生の早で登熟日数は「マツマエ」より短い。
4. 障害型耐冷性はやや強、いもち病耐病性は、葉いもち、穂いもちとも中～やや強、耐倒伏性はやや強～強である。
5. 玄米収量は「マツマエ」よりやや劣るが、「巴まさり」や「ゆきひかり」よりやや優る。
6. 粳種で粒形は中、粒大は中、粒重は中で「ゆきひかり」より大きい。腹白は僅かにあるが、心白はほとんど

ど無く、玄米品質は上中下、食味は「ゆきひかり」より優り「きらら397」並である。

栽培適地と奨励態度

渡島南部、檜山南部およびこれに準ずる良地帯の「マツマエ」の全部、「巴まさり」と「ゆきひかり」の一部にかえて栽培することにより、北海道南部の産米の品質と食味水準の向上に寄与する。栽培上の注意は、苗が徒長しやすく初期分けつ性がやや劣るので健苗を用い、栽植密度は25株/㎡以上とし、稈長がやや長く耐倒伏性が十分でないため、多肥栽培は避ける。いもち病耐病性が十分でないため、その発生に注意し適期防除を行う。障害型耐冷性は「ゆきひかり」より弱いので、穂孕期の低温の際には深水灌漑を励行する。また、登熟性が良いので刈り遅れないように留意し、適期刈りを励行する。

試験場名	苗の種類	品種名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期における			10a当り		玄米		試験年次
					稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本)	玄米重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	等級	
道南農試	中苗	ほのか224	8.10	9.27	71	16.7	457	511	98	22.1	1下中	1987～1989
		マツマエ	8.11	9.30	67	16.1	461	524	100	23.4	2中中	
		巴まさり	8.14	10.5	76	17.6	537	495	94	20.9	3上中	
		ゆきひかり	8.5	9.21	69	17.5	528	494	94	21.3	2上上	
資源センター	中苗	ほのか224	8.10	9.27	67.5	17.0	494	609	108	21.9	1下	1987～1989
		マツマエ	8.13	10.2	65.1	16.5	550	569	100	22.9	3上上	
		ゆきひかり	8.3	9.22	61.2	17.7	585	586	104	21.4	2中	
中央農試	中苗	ほのか224	8.14	9.29	66.3	16.8	512	469	89	21.1	2上下	1987～1989
		マツマエ	8.16	10.2	62.0	16.8	544	524	100	22.5	2下下	
		ゆきひかり	8.10	9.25	66.3	17.8	572	445	85	19.9	2中	

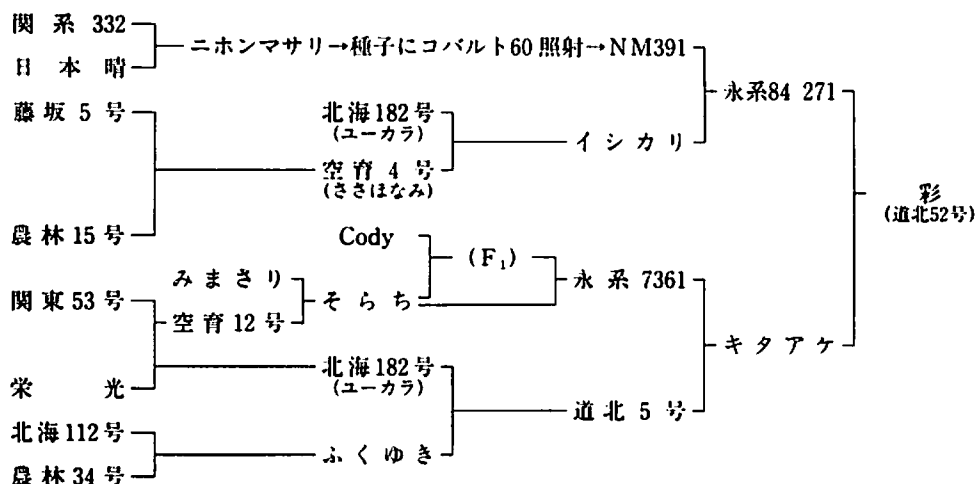
注) 試験成績はいずれも標準施肥区。

- 参照 1) 北海道農政部編, 平成2年普及奨励ならびに指導参考事項, 6-10(1990).
2) 竹川昌和 等, 北海道立農試集報, 64, 43-58(1992).

(8) 彩 (系統名 道北52号) 1991年

登録番号: (北海道) 水稻北海道うち第42号
(農水省) 水稻農林309号
(種苗法) 第3283号

来歴 本品種は、1984年に北海道立上川農業試験場において、「永系84 271」を母、「キタアケ」を父として人工交配し、その雑種第1代の薬培養により育成したもので、1986年より「AC8688」、1987年から「道北52号」の系統名で各種の試験を行い、1991年に優良品種となった。なお、本品種の系譜は次のとおりである。



特性概要

1. 稈長は「ユーカラ」とほぼ同じで、穂長は「ユーカラ」や「ゆきひかり」より短く、穂数は「ユーカラ」と同程度かやや多い穂数型である。
2. 粒着密度はやや疎、芒は中短で稈先色ならびに穎色は黄白であり、脱粒性は難、割れ割の発生は「ゆきひかり」より多く「ユーカラ」並である。
3. 出穂期は中生の晩、成熟期も「ユーカラ」より早い中生の晩である。
4. 障害型耐冷性は中～やや強、いもち病の圃場抵抗性は、葉いもち病は弱、穂いもち病はやや弱～弱、耐倒伏性は中程度である。

栽培適地と奨励態度

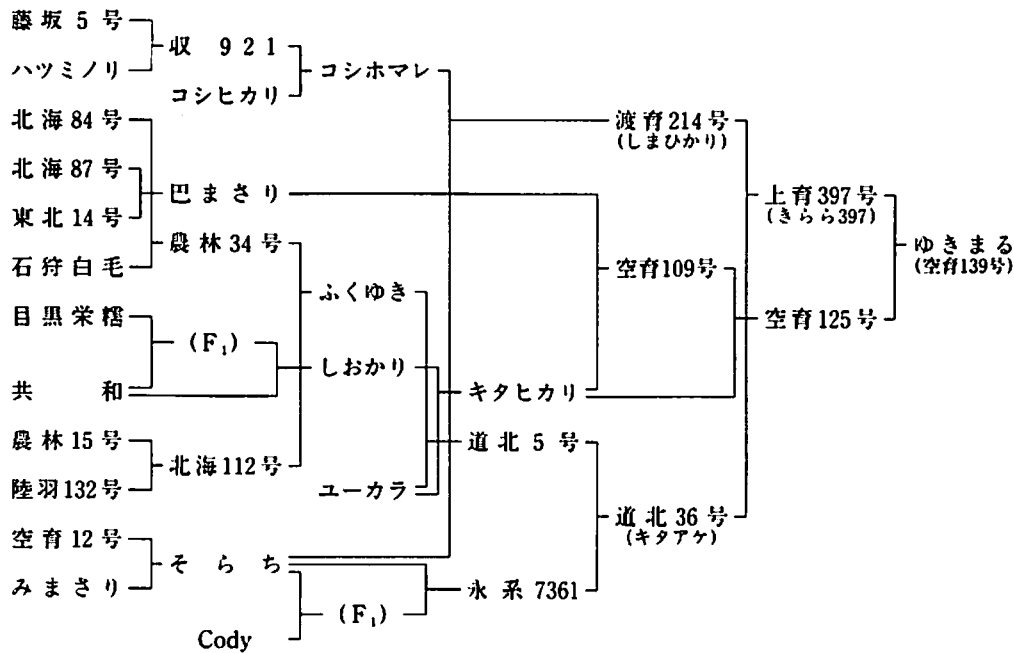
北海道空知北部の良地帯で、いもち病の発生が少なく「ユーカラ」栽培実績があった所の「ユーカラ」の全部と「ゆきひかり」の一部に替えて栽培し、当該地帯の産米の食味向上に寄与する。栽培上の注意は、いもち病が発生しやすい場所での作付けを避け、水面施用剤の使用により初期防除を徹底し、その後も茎葉散布剤を併用して予防的防除に努める。耐倒伏性、耐冷性が十分でないので多肥栽培は避け、穂孕期の低温の際には深水灌漑を励行する。熟期がやや遅く、生育が遅延したときの品質の低下が懸念されるので、成苗を用いて早植えを行い、栽培基準に従った栽植密度を守り生育の促進と斉一性の向上を図る。

試験場名	栽培条件	品種名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期における			10a 当り		玄米		試験年次
					稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本)	玄米重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	等級	
上川農試	中苗	彩	8.5	9.24	68	16.7	702	591	98	23.3	2	1988～1990
		ユーカラ	8.6	9.24	65	17.8	693	602	100	22.5	1下	
	標肥	ゆきひかり	7.31	9.24	64	17.5	624	619	103	21.8	2上	

- 参照 1) 北海道農政部編, 平成3年普及奨励ならびに指導参考事項, 3-6(1991)。
2) 国広泰史 等, 育種学雑誌, 43, 155-163(1993)。

(9) ゆきまる (系統名 空育139号) 1993年
登録番号: (北海道) 水稻北海道うち第43号
(種苗法) 第4530号

来歴 本品種は、1985年北海道立中央農業試験場において、「上育379号」を母、「空育125号」を父として人工交配を行い育成したもので、1988年より「空系63327A」、1990年から「空育139号」の系統名で各種の試験を行い、1993年に優良品種となった。なお、本品種の系譜は次のとおりである。



特性概要

- 1. 稈長は「空育125号」よりやや短く、穂長は「空育125号」よりやや長く、穂数も多く、草型は穂数型である。
- 2. 稈先に「空育125号」よりやや長い芒が生ずることがあり、その頻度は中であり、穎色および稈先色は黄白色、粒着密度はやや疎、割れ粃の発生はやや少である。
- 3. 出穂期は早生の中、成熟期は早生の晩で、登熟日数は「空育125号」より少し長い。
- 4. 障害型冷害に対する抵抗性はやや強～強、いもち病耐病性は強、耐倒伏性はやや強である。
- 5. 玄米収量は、「空育125号」並ないしはやや劣る。
- 6. 粳種で粒形はやや長、粒大は中、玄米品質は上下上であり、食味は「きらら397」並である。

栽培適地と奨励態度

網走、上川、留萌、空知、石狩、後志、胆振、日高の各支庁管内と渡島及び檜山支庁北部地帯の「空育125号」と「上育393号」の殆どにおき替えて栽培し、作付け基準による適正な熟期配分を推進し、早生品種地帯の食味水準の向上と道産良食味米の安定生産に寄与する。栽培上の注意は、障害型耐冷性はやや強～強であるが、十分とは言えないので幼穂形成期から穂孕期にかけての低温の際には深水灌漑を励行し、穂摘いが劣るため植え付け株数は栽培基準を厳守し、適期刈り取りに特に留意する。短稈であるが耐倒伏性はやや強と不十分であり、また、腹白が栽培条件により発生することがあるので、多肥栽培を避け北海道施肥基準を守り、出穂変動が大きいので、熟期を考慮して、その地帯に適した育苗法を用いる。

試験場名	栽培条件	品種名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期における			10a当り		玄米		試験年次
					稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本)	玄米重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	等級	
中央農試	中苗 標肥	ゆきまる	7.30	9.14	55	16.3	662	497	100	20.5	1中下	1990～1992
		上育393号	8.2	9.16	64	17.9	532	491	99	20.3	1下	
		空育125号	8.1	9.14	58	15.9	564	496	100	20.4	1中	
		きらら397	8.6	9.22	59	16.6	640	519	105	21.0	1下	

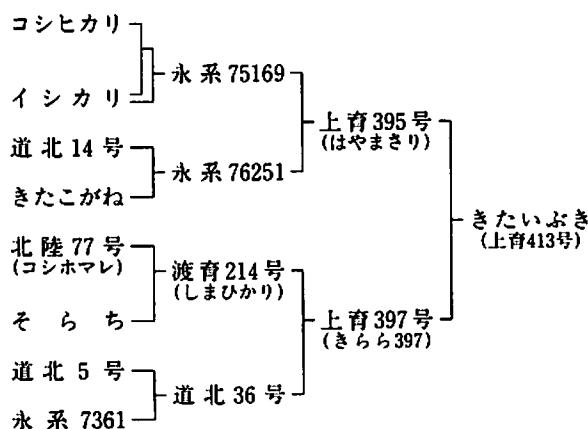
注) 玄米比率は「空育125号」対比である。

参照 1) 北海道農政部編, 平成5年普及奨励ならびに指導参考事項, 1-5(1993)。
2) 佐々木忠雄 等, 北海道立農試集報, 67, 1-17(1994)。

(10) きたいぶき (系統名 上育413号) 1993年

登録番号: (北海道) 水稻北海道うるち第44号
(農水省) 水稻農林318号
(種苗法) 出願中

来歴 本品種は、1985年に北海道立上川農業試験場において、「上育395号」(はやまさり)を母、「上育397号」(きらら397)を父として人工交配を行い育成したもので、1988年より「上系88145」、1990年から「上育413号」の系統名で各種の試験を行い、1993年に直播栽培向優良品種となった。なお、本品種の系譜は次のとおりである。



特性概要

1. 稈長は「はやまさり」よりやや長く、穂長は「はやまさり」より短く、穂数は「はやまさり」より多く、草型は穂数型に属する。
2. 稈先に稀に極短芒が有り、稈色および稈先色は黄白で、脱粒性は難、割れ靱「ハヤカゼ」より多くほぼ「はやまさり」並である。
3. 出穂期は極早生、登熟日数は「はやまさり」よりやや長く、成熟期は「ハヤカゼ」並である。
4. 障害型耐冷性はやや強、低温による出穂の遅れはやや大、いもち病圃場抵抗性は葉いもち病、穂いもち病ともに強、耐倒伏性は中～やや強である。
5. 玄米収量は、「ハヤカゼ」より劣るが「はやまさり」に優る。
6. 粳種で粒形はやや長、粒大はやや小、玄米品質は上下、白米白度は「はやまさり」に優り、食味は「ゆ

きひかり」並で、「はやまさり」より明らかに優る。

栽培適地と奨励態度

上川 (中南部)、留萌 (中南部)、石狩、空知、後志、胆振、日高、渡島、檜山の各支庁管内の良地帯の「はやまさり」の大部分と置き替えて栽培し、北海道における直播栽培の定着を図る。栽培上の注意は、低温発芽性は「はやまさり」並かやや劣るので種子の予措及び催芽を適切に行い、低温下での苗立ち性が不十分なので、適期播種と適切な水管理を行い、苗立ちの確保に努める。耐倒伏性と登熟性が劣るので多肥栽培は避け、透排水の改善等により根の発育と活力の維持を図り、倒伏の防止と登熟の促進に努める。障害型耐冷性が不十分なので幼穂形成期から穂孕期にかけての低温の際には深水灌溉を励行し、割れ靱の発生が「はやまさり」並に多いので適期収穫に努める。

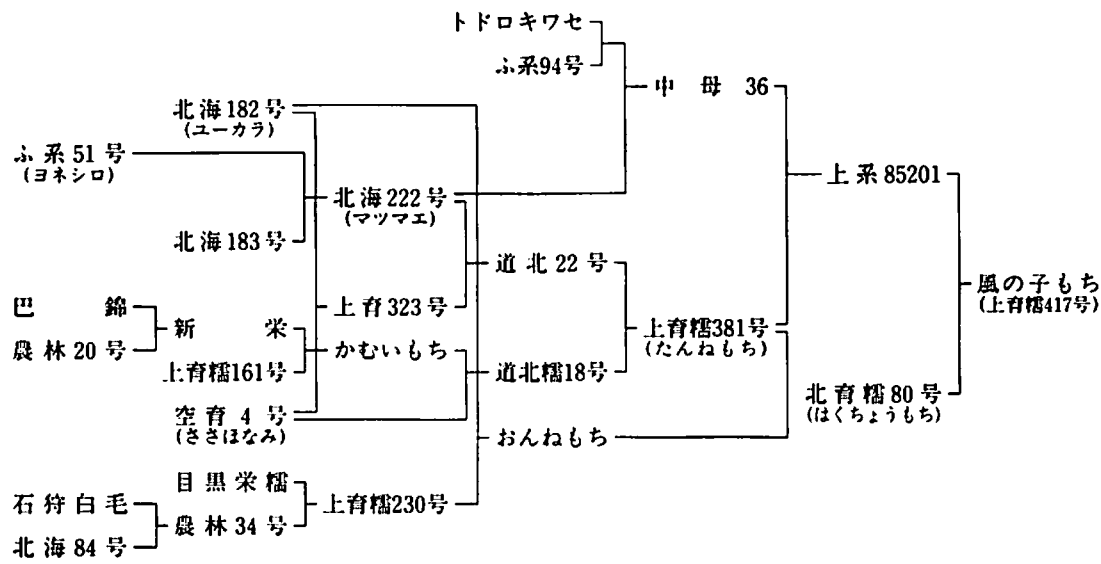
試験場名	栽培条件	品種名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期における		10a当り		玄米		試験年次
					稈長 (cm)	穂数 (本)	玄米重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	等級	
上川農試	直播	きたいぶき	8.6	9.21	54	1065	491	96	20.5	1下	1991~1992
	散播	はやまさり	8.4	9.16	51	1016	510	100	21.4	1下	
中央農試	直播	きたいぶき	8.6	9.17	50	1179	481	96	20.4	1下	1990~1993
	条播	はやまさり	8.4	9.15	48	1049	499	100	20.6	1下	

注) 中央農試の1990年は散播。穂数は㎡当たりで示す。

- 参照 1) 北海道農政部編, 平成5年普及奨励ならびに指導参考事項, 6-10(1993)。
2) 田緑勝洋 等, 農業技術, 48, 462(1993)。

(2) 風の子もち (系統名 上育糯417号) 1995年
登録番号：(北海道) 水稻北海道もち第45号
(農水省) 水稻農林333号
(種苗法) 出願中

来歴 本品種は1987年に北海道立上川農業試験場において、「上系85201」を母、「北育糯80号」を父として人工交配を行い育成したもので、1990年より「上系90352」、1992年から「上育糯417号」の系統名で各種の試験を行い、1995年に優良品種となった。なお、本品種の系譜は次のとおりである。



特性概要

1. 稈長は「はくちょうもち」より長く、「たんねもち」に比べてやや長い。穂長は「たんねもち」より長く、穂数は「たんねもち」より少なく、草型は偏穂数型である。
2. 稈先に極短芒を生じ、稈色と稈先色は黄白であり、脱粒性は難、割れ粒は「たんねもち」より少なく「はくちょうもち」並である。
3. 出穂期は中の早、成熟期は「たんねもち」よりやや遅い中の早に属する。
4. 障害型耐冷性は強～極強、低温による出穂遅延の程度は「たんねもち」や「はくちょうもち」よりやや大きく、いもち病抵抗性は葉・穂いもち病ともに中で、紅変米の発生は少なく、耐倒伏性はやや強である。
5. 玄米収量は「たんねもち」より多く、「はくちょうもち」に比べて明らかに多収である。

6. 糯種で、粒形と粒大はともに中、千粒重は「たんねもち」や「はくちょうもち」より重く、玄米品質は「はくちょうもち」並の上下上、白米の白度は「はくちょうもち」並に高く、食味はつき餅、おこわともに「たんねもち」より優り「はくちょうもち」並である。

栽培適地と奨励態度

上川(士別以南)、空知、石狩、渡島各支庁管内およびこれに準ずる良地帯の「たんねもち」の大部分と「はくちょうもち」の一部に置き替えて作付けする事により、全道的な良質糯米の安定生産を図る。栽培上の注意は、中生種であり、かつ登熟日数が比較的長いので、生育の遅延する地帯及び登熟期間の短い地帯では成苗を用い、また、早植えなど生育促進技術を励行する。中生種としてはいもち病抵抗性が不十分なので、適期防除に努め、初期分けつが劣るので基準の栽植株数を確保し、品質低下を防止するため適期刈取りに努める。

試験場名	栽培条件	品 種 名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期における			10 a 当り		玄 米		試験年次
					稈 長 (cm)	穂 長 (cm)	穂 数 (本)	玄米重 (kg)	左 比 (%)	千粒重 (g)	等 級	
上 川 農 試	中 苗	風 の 子 も ち	8. 4	9. 2	62	16.5	544	513	109	20.3	2中	1992～1994
		た ん ね も ち	8. 2	9. 2	61	16.1	568	470	100	18.6	2中	
	標 肥	は く ち ょ う も ち	8. 2	9. 1	53	14.3	572	419	89	19.1	2上	

参照 1) 北海道農政部編、平成7年度普及奨励ならびに指導参考事項、1～4(1995)。